# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【城南中学校】

## ① 目 標・策

| | 目 標 | | 策 |
|---|---|---|---|
| 知識・技能 | R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、各教科の「知識・技能」において+2pt向上を目指す。 | ⇒ | 授業の内外で、ICTツール等も活用しながら、生徒の学習方法の選択の幅をもたせ、様々なアプローチで反復・習熟を行える場を設定する。 |
| 思考・判断・表現 | R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、各教科の記述問題無回答率の平均値2%以内を目指す。 | ⇒ | あらゆる場面で生徒が自分の考えを記述する場を設ける。生徒の取り組みに対して、教員が認めることを繰り返す。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | R4年度さいたま市学習状況調査「学習した内容について，分かった点や，よく分からなかった点を見直し，次の学習につなげることができていますか。」の質問項目において、自校結果肯定的な回答の割合を＋2pt向上目指す。 | ⇒ | 授業の振り返りやテスト前の「チャンスタイム」を活用して、生徒が学習を見直して、次の学習につなげていく時間を設定する。 |

## ② 全国学力・学習状況調査結果・分析

| | |
|---|---|
| 知識・技能 | R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語－7．8pt、数学－2．9ptであった。国語の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読めない生徒が多かった。様々な作品の鑑賞を通して、歴史的仮名遣いに触れる機会を重視したい。 |
| 思考・判断・表現 | R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語＋0．8pt、数学＋2．6ptであった。数学の複数の集団のデータの分布の傾向を比較してとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がみられた。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | R5年度全国学力・学習状況調査「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目の、肯定的な回答が93．2%で、R4年度＋19．6ptであり、生徒が自身の自己調整の成果を実感していることがわかる。 |

## ③ 中間期見直し（全国学力・学習状況調査結果分析後）

| | 目 標 | | 策 |
|---|---|---|---|
| 知識・技能 | R5全国学力・学習状況調査の国語「知識・技能」において課題が見られたため、さいたま市学習状況調査において、R4年度の平均正答率と比較し、国語は1.5ptの向上を目指す。その他の教科は＋2ptを目指す。 | ⇒ | 当初の策に加えて、国語の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す力を高めるため、様々な作品の音読や小テストなどを通して、反復の機会を増やす。 |
| 思考・判断・表現 | 変更なし | ⇒ | 変更なし |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 変更なし | ⇒ | 変更なし |

## ④ さいたま市学習状況調査結果・分析

※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。

| | |
|---|---|
| 中1 | 「知識・技能」において、R4年度さいたま市学習状況調査と比較すると国語が＋2.5pt、社会が＋2．7ptであった。特に、国語の慣用句の意味を理解し文章の中で使うことはよくできていた。一方で、社会において、時代を大観し、変化や特色を捉えることに課題が見られる。各教科において「知識・技能」の一層の定着を図るために、引き続き、多様な手段で反復・習熟が行える場を設定する。また、生徒が既習内容を自分で整理する活動の充実に努める。 |
| 中2 | 「知識・技能」において、R4年度さいたま市学習状況調査と比較すると国語、数学がともに＋2.2pt、理科で＋3ptであった。特に、数学のデータの活用について、市平均と比べると比較的できていたことが伺える。一方で、理科において、「地球の大気と天気の変化」において、データや与えられた条件から思考し判断することに課題が見られる。各教科において「知識・技能」の一層の定着を図るために、引き続き、多様な手段で反復・習熟が行える場を設定していく。 |
| 中3 | 「学習した内容について，分かった点や，よく分からなかった点を見直し，次の学習につなげることができていますか。」の質問項目において、肯定的回答が昨年度＋2．1ptの81．2%であった。全国学力・学習状況調査時からは下がっているものの、生徒が自己調整の力の伸長を実感していることが伺える。 |

## ⑤ 目標・策の達成状況

| | | 評価（※） |
|---|---|---|
| 知識・技能 | R5年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、各教科の「知識・技能」において、2学年5つの教科で昨年度比＋2pt以上を達成した。各教科で、知識・技能の向上を目指して、生徒が自身の状況に応じて目標や手段を選択できる場を多様に設定した。 | A |
| 思考・判断・表現 | R5年度さいたま市学習状況調査では各教科の記述問題無回答率の平均値が1．37%で、2%を切った。各教科で、生徒が協働的な学びを通して、自身の考えを、それぞれの目標に応じて表現する場を多様に設定した。 | A |
| 主体的に学習に取り組む態度 | R5年度さいたま市学習状況調査「学習した内容について，分かった点や，よく分からなかった点を見直し，次の学習につなげることができていますか。」の質問項目において、自校結果肯定的な回答の割合は学校全体で＋2ptに至らなかった。一方で、学年毎の結果では、昨年度比＋2pt以上を達成している。校内学習アンケートでは、「チャンスタイム」が生徒にとって有意義な時間となっていることがわかっている。 | A |

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（概ね達成）　C 6割未満（あと一歩）

## ⑥ 次年度への課題と改善策

| | |
|---|---|
| 知識・技能 | 各教科で改善が見られるものの、定着には依然課題が残っている。生徒が自分の状況に応じて反復演習ができるよう、よりよい場の設定について検討していく。 |
| 思考・判断・表現 | 教科によって無回答率の差が大きい。教科の特性や授業の題材に応じて自分の考えを記述する場面を充実させ、記述のモデルを提示する等してどの生徒でも取り組みやすくすることで、日ごろから生徒が書こうとする態度の育成を図りたい。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 調査によって結果にばらつきがあることから、生徒が自分の自己調整力の伸長を感じられる時期にとそうでない時期があると考えられる。引き続き「チャンスタイム」を核としながら、他の場面でも、生徒が自分の課題に応じて学習を調整していける場面を増やしていくことに努めたい。 |